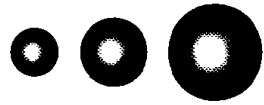


Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド 21 プラス

名取市男女共同参画情報紙
プラス7号 2009年3月



皆さん、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をご存知ですか？「仕事と生活の調和」と訳されますが、誰もが働きやすい仕組みを作ることの意味しています。平成19年12月には、関係閣僚・経済界・労働界・地方公共団体の合意により、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現に向け官民一体となった取り組みが始まりました。このような流れの中、重要な役割を果たすのが、企業、事業所の取り組みです。そこで、今回は名取市のふたつの事業所を、名取市男女共同参画推進委員会が取材し、その取り組みを紹介いたします。

事業所内保育所「おおぞら保育園」を持つ職場 社会福祉法人 宮城福社会

安心して働く環境整備として

「宮城福社会」は、名取地区をはじめ県内の各地で高齢者のための支援施設を運営し、地域福祉に貢献している事業所です。名取市手倉田には養護老人ホーム松寿園をはじめ様々な福祉施設があり、福祉の丘と呼ばれています。職員は臨時職員を含めて全体で約500名、名取地区では150名ほどの方が働いており、その内、約8割が女性職員といった事業所です。

この職員の方々が安心して勤務に専念できるように設置されたのが事業所内保育所「おおぞら保育園」です。



みんな一緒に楽しく

平成4年に設置された保育所は、高齢者施設に隣接しており、0歳から6歳までの18名の児童が保育士のもと、まさに「目の届くところ」で保育されています。今回、「おおぞら保育園」園長の吉田孝順さんにお話を伺いました。職員のシフトに応じた保育時間、高齢者施設と合同で行う季節行事、また施設の体育館の利用など、事業所内保育所ならではの運営がされています。また、こちらの保育園では、学童保育などもファミリーサポートセンターとの連携のもと実施されているとのことでした。

職員でもある保護者にとっては、「目が届くところで」「同僚による保育」、「いつ子どもが生まれても預け先の心配がない」という点が大きな安心感となっているとのこと。男性職員が子供を預けているケースもあり、子供を持ちながら働く職員にとっての支援として機能していることがわかります。

ひとりひとりを大切に

宮城福社会は、施設の利用者の皆さんが「明るく楽しい生き甲斐のある生活」ができるように、生きている喜びを実感できるサービスの提供に努めている事業所です。このような心のこもったサービスの提供には、職員のひとりひとりが安心して生活できる基盤と自信を持って仕事に従事するための知識や技能を持つことが重要であり、事業主は積極的に職員を支援する必要があります。

吉田さんのお話では、事業所内保育所の存在が職員募集にも反映していることから、他の地区でも事業所内保育所設置を検討しているとのことでした。また、職員の能力を生かすための工夫や取り組み、職員が「良い状態」でいられる勤務体制などにも積極的に対応していきたいという姿勢が伝わってきました。施設の利用者も保育園の園児も、そして職員も、ひとりひとりが大切な存在として、安心して生きていける環境をつくるのが重要であることを改めて実感しました。

おおぞら保育園の園長であり、養護老人ホーム松寿園の所長でもある吉田さんには、お忙しい中お話を聞かせていただきありがとうございました。子供たちから盛んに声をかけられている園長の様子が印象的でした。



働くあなたにも優しさを

タクシードライバーは「精神的にも肉体的にも厳しそう...。」というネガティブなイメージを持たれがちですが、最近では女性ドライバーも増えています。仙台でいち早くハイブリッド車を導入したミナトタクシーの総務部長下川勝之さんにいろいろとお話を伺いました。

株式会社ミナト高橋新蔵商店、通称ミナトタクシーは、昭和25年に開業で事業を始めました。今では、予約を中心にタクシー業を展開しており、月間平均4万件、平日でも1日約1,000件の配車をこなしています。そのため配車室には7名の女性がおり、ドライバーは75名、うち女性ドライバーは4名います。

防犯の点からは女性を深夜勤務から極力はずしたいと考えているものの、当の女性ドライバーからは「生活を維持するためには夜もやりたい」という要望があるほどです。予約中心の営業は、お客様の身元がわかりやすく、防犯が問題となっている昨今、男性ドライバーにとっても安心できるしくみになっています。しかし、女性ならではの問題も皆無ではなく、女性専用の講習が行われています。また、家までお迎えに行くというスタイルなので、電話を受ける配車室の担当者にも土地感が必要となり、研修を行っているそうです。

タクシーの社会的役割

朝に病院へ行く予約客が多いことから、タクシーは、これからの高齢社会になくってはならない存在となっております。より「安心感」が求められるようになっていきます。そのような状況では、ドライバーの質をあげることがリピーターを増やすことにつながります。ドライバーには、積極的に話をする必要はなくても、お客様に聞かれたときに応える

知力、お客様の目線にたって考え対応する力が必要となります。そんなドライバーを「運転手」と呼ぶのではなく、保育士・介護士などと同様にプロと認め「運転士」と呼んでほしいという思いがあるそうです。

「お客様に安全安心」を提供するためには、会社が一人ひとりの従業員を大切に考え、お金を惜しまず人を育てる。この姿勢が従業員を育て、その一人ひとりが会社の価値を高めていく。その循環が「環境」「地域密着」「高齢化」などといった現代的課題にも対応できる会社をつくりあげるのだという下川さんのお話に会社と従業員のありべき姿を感じました。



女性ドライバーに聞く

この会社に入って約1年の佐藤まり子さんにお話を伺いました。以前はバスガイドで、泊まりなどがあるために母子家庭では続けるのが難しく、タクシードライバーになったそうです。「他の職業もあるのにどうして？」との問いに「接客が好きなので迷わずに！」と明るく答えてくれました。この会社の前にも別のタクシー会社にいたそうです。「この会社は歩合制ですが、個人の条件(家庭の事情など)を考慮し、毎月の収入が一定になるように欠勤した場合は振り替えるなど配慮してくれるので、安心して働くことができます」とのことでした。

名取市の取組み

ワーク・ライフ・バランスのお手伝い

名取市ファミリーサポートセンター

ファミリーサポートセンターとは、子育ての手助けをしてほしい人(利用会員)と子育ての手助けをしたい人(協力会員)がお互い会員として登録し、子育てをしやすい環境を整え、仕事と育児の両立支援や、地域の子育てを支援する事業です。

具体的には、保育所や幼稚園、児童センター等の送り迎え、子供が軽い病気の場合の預かり、乳幼児を連れて出掛けにくい時の預かりなどがあります。

利用する場合には、事前に登録が必要です。名取市では、増田児童センター内に事務所があり、アドバイザーが対応しています。連絡先(022-384-5133) 全国各地で実施されている事業です。ワーク・ライフ・バランス実現のため有効に活用することをお勧めします。



詳しくは市のホームページ <http://www.city.natori.miyagi.jp> 「分野別インデックス」「福祉の母子家庭、寡婦、保育、生活保護」「ファミリーサポートセンターの概要」をご覧ください。

男女共同参画の取組み 「女性のチカラを活かす企業認証制度」 宮城県

男女共同参画推進の活動に、「ポジティブ・アクション」という取組みがあります。これは、固定的な性別による役割分担意識や過去の経緯から、男女労働者の間に事実上生じている差があるとき、それを解消しようと、企業が行う自主的かつ積極的な取組みのことで、ポジティブ・アクションを進めることによって、「男女ともに職務遂行能力によって評価されるという意識が高まった」、「男女ともに働きやすい職場になった」、「女性社員の責任感が向上した」などといったよりよい企業と労働者の関係が見えてくるようです。

宮城県では、企業の自主的な取組みの促進を目的として、「女性のチカラを活かす企業認証制度」をスタートさせました。すでに147社(平成21年2月1日現在)の企業が認証されています(認証企業一覧は、宮城県男女共同参画推進課のホームページをご覧ください)。この制度が浸透することによって、より働きやすい職場環境が整備されることを期待します。

優良事業所 知事表彰

宮城県では、「女性のチカラを活かす企業認証制度」に加え、特に優れた事業所については訪問調査の上、知事表彰を行っています。今年度は、調査をNPO「男女共生社会をすすめる会」に委託し、34事業者を訪問。その結果と選定会議の意見をもとに、右記の2事業者を選定し、表彰しました。いずれも本社は仙台市にありますが、名取市内にも事業所のある会社です。このようなワーク・ライフ・バランスを重視した企業が増えることによって、男性にとっても女性にとっても働きやすい職場環境がつけられていきます。

東北緑化環境保全株式会社(仙台市/造園土木・測定分析・環境調査)

- ・社員を資格と能力で客観的に評価・配置し、資格取得を支援している。
- ・女性従業員47名中、課長・係長が12名と、管理職登用が進んでいる。
- ・看護休暇も男女を問わず利用されており、現在も育児短時間勤務制度を男性が利用中である。

「社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員が働きやすい環境をつくることによって、すべての社員がその能力を十分に発揮できるようにする」ことを一般事業主行動計画に掲げており、「子の出生時における父親の休暇取得の促進を図る」ことも目標のひとつとしています。

株式会社 ユアテック(仙台市/電力を中心とした総合設備エンジニアリング)

- ・管理職は2名だが係長が5年前に比べて約2倍。
- ・育児、介護の両立支援が充実し、利用者が多い。

育児休暇や短時間勤務制度を利用しながら職場復帰することが当然のこととして受け止められており、二人目三人目の子育てをしながら働きつづけられる雰囲気がつくられています。

(出典:平成20年度「ポジティブ・アクション推進事業」実施状況 概要版)



3月8日は、国際女性デー (International Women's Day)

国連では1975年(国際婦人年)より3月8日を「国際女性の日」と定め、女性に対する差別撤廃と、社会開発への完全かつ平等な参加に向けた環境整備に貢献することを各国に呼びかけています。



最近では政治色が薄れ、「女性に感謝する日」として花を贈る記念日となった国もあります。日本では厚生労働省が毎年3月1日～8日を「女性の健康週間」と定め、女性の健康づくりを推進しています。

世界的に見ると、女性がまだまだ困難な状況にある地域や国も少なくありません。国際女性デーは、そのような女性たちを想い、私たちが今できることを考える日として捉えることもできます。国際婦人年から34年、世界各国の女性たちはどこまで可能性を広げてきたでしょうか？

3月8日には、性別に関係なく尊厳を持った生き方とは何か、それを実現するために必要なものは何かを考えてみませんか。

川柳・フォトコンテスト結果発表

昨年7月1日から8月29日まで男女共同参画に対する理解が深まるよう名取市民または名取市に通勤・通学している方を対象に「男女共同参画川柳・フォトコンテスト」の作品を募集しました。その結果、大学生から80代の方まで幅広い年代層から応募いただき、個性豊かな161作品（川柳137作品、写真24作品）が集まりました。

その中から、川柳・写真それぞれ優秀賞1作品、入賞10作品が選ばれ、10月29日に名取駅コミュニティプラザにおいて表彰式が行われました。



受賞者の方々

優秀賞

【川柳の部】
男女間 家事も仕事も バリヤー・フリー

【写真の部】 松谷 博さん(高館)



男だからこうすべきだ、女だからこう行動すべきだといった従前の固定的役割分担の考え方を改めるには、男女間にある考え方の障壁（バリヤー）を取り払うこと（フリー）であるという思いの作品です。

作品名：ゆうすけ先生は人気者！

阿部 剛さん（柴田町）

作品説明：保育所の先生は、女性の先生がほとんどですが、その中で頑張っている男の先生もいるのです。ゆうすけ先生の周りには、いつも子供たちが集まり、あちこちから声が掛かって引っ張りだこです。

入賞

【川柳の部】
苦と楽を 分け合い辿った 夫婦坂
伊東 徳太郎さん（閑上）

男女とも 一緒に働く いい社会
今田 華衣さん（塩竈市）

笑顔咲く 夫婦で並ぶ 台所
浅野 美由紀さん（登米市）

女子はレジ 決まりなんだと バイト先
佐々木 千恵さん（仙台市）

平等は 難しいけど やれること
木村 泉美さん（塩竈市）

共にゆく 男女格差を なくすため
小野 真海さん（七ヶ浜町）

家事育児 父も参加で 母笑顔
遠藤 瑞穂さん（仙台市）

赤子の手 はさんでにぎる 夫婦の手
高橋 良聡さん（仙台市）

わたしたち 二人でやるよ 子育ても
阿部 萌さん（仙台市）

見直そう 性別役割 性差別
小野寺 祐一郎さん（仙台市）

【写真の部】(作品名)

仲良く家事分担 石川 妙子さん(飯野坂)

祭りだ！祭りだ!! 菅原 悦男さん(名取が丘)

“実の秋”収穫間近だね～!! 渡邊 かつよさん(大曲)

竹馬乗ろうよ！ 針生 朋子さん(閑上)

仲間 沼田 恵さん(閑上)

お散歩 阿部 徳昭さん(閑上)

いい笑顔 阿部 さつきさん(閑上)

おばあちゃんは編み物先生 針生 誠さん(閑上)

南の島でダイビング～高橋 まゆみさん(那智が丘)

お手伝い 洞口 栄一さん(大曲)